令和６年度第２回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和６年 11 月 18 日（月）午後２時 00 分～3 時 30 分
2. 開催場所 京丹後市大宮庁舎　4 階　第２・３会議室
3. 出席者氏名

（1）審議会委員

田中会長、松本副会長、上田委員、櫛田委員、阿辻委員、谷口委員、増田委員、安井委員、山田委員

※　欠席５名（藤原哲委員、山内委員、丸山委員、吉岡高委員、藤原可委員、）

（2）アドバイザー

藤野一夫氏、甲斐少夜子氏

（3）事務局

教育長　　松本明彦

教育次長 川村義輝

生涯学習課　課長 松本優、課長補佐 小森教正、主任 寺島千絵、主任 野村拓矢

4. 内容

別紙（会議次第）のとおり

5. 公開又は非公開の別　　公開
6. 傍聴人　　０人

会議録

事 務 局　　定刻になりましたので、ただいまから令和６年度第２回京丹後市文化芸術振興審議会を開催させていただきます。公私ともご多忙のなか、また足元の悪い中、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます京丹後市教育委員会生涯学習課長の松本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は藤原哲也委員、山内美幸委員、吉岡高博委員、藤原可苗委員からご欠席の連絡をいただいております。本日の審議会につきましては、委員 14 名のうち、９名のご出席ということで、過半数のご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告させていただきます。それでは開会にあたりまして、松本教育長よりご挨拶を申し上げます。

教 育 長　　皆さんこんにちは。第２回の京丹後市文化芸術振興審議会を開催しましたところ、本当にお忙しい中、皆さんご出席いただきましてありがとうございます。先ほどもありましたように先週は本当に暖かい日が続いておりまして、11 月でも夏日になろうかというような日もたくさんある中で、スポーツや芸術文化の取組には本当に良い季節であったわけですけれども、今日の雨で一転しまして、本当に寒くなってまいりまして、季節が少し流れております。この土日も京丹後市は多くの取り組みをしておりまして、土曜日には丹後大学駅伝といいまして関西の大学の駅伝大会が実施されまして、青山学院大学にオープン参加し

ていただき、盛り上がった大会でしたけれども、ゴールの所に峰山中学校と大宮中学校の子供たち、吹奏楽の皆さんに演奏でゴールを盛り上げていただいて、本当に生の演奏で大学生たちが一生懸命走っているところを応援していく、そういう後押しをしていただいて、やはりそういうスポーツの分野でも芸術文化のコラボというところの良さも感じさせていただきましたし、昨日、山陰近畿自動車道の早期実現促進大会というのが、アミティ丹後であったんですけれども、丹後吹奏楽団の皆さんにオープニングを飾っていただきまして、本当に文化芸術が、行事や生活に根づいているというようなところを感じさせていただいた土日となりました。さて、今日は第2回目ということで、第1回目のときに文化芸術振興審議会の役割はどういうものかという意見も多数出ていたというふうに思いますので、今回はその辺りを一定整理させていただいて、どんな役割を担っていただくのが望ましいのかというようなところをこちらからお示ししたうえで、ご意見をお願いできたらというふうに思っています。基本的には、学校現場での学校評価に例えて考えていきますと、学校評価も学校の方では基本的に自分たちの本年度方針に従って、自己評価、つまり自分たちで評価したものを関係者評価委員という方々に、自分たちはこんな自己評価をしましたよということで見ていただいて、関係者の評価をいただいて、そして、次その評価をまとめていくと、そういう流れになっております。文化芸術振興計画というものが策定されていますので、今回、教育委員会で自己評価をさせていただいたものを示しております。京丹後市の文化芸術の関係者の方々に集まっていただいていますので、その自己評価を踏まえて、各方面の関係者の方々にそうした自己評価に対してご意見をもらって、この評価をまとめていくと、そういうような流れになっているというのが、基本的な考え方だというふうにとらえております。今日はそうした資料も踏まえながら、皆さんの考えもいただきながら、計画の進捗や評価をまとめていって、来年度につなげていくと、そういう会議にしていただけたらと思っていますので、本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事 務 局　続きまして田中会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

田中会長　皆様改めましてこんにちは。お久しぶりでございます。皆さんお変わりないでしょうか。大変寒い日になりまして、そして、とてもお忙しい中、この時間この会議に参加していただきありがとうございます。文化芸術の秋も短く、本当に今、みぞれが降ってきそうな天気ですけれども。私も全部ではないですけれどもできる限り、いろんなアートというか芸術に触れさせていただくように、心がけて周らせていただきました。なので、今日のこの会議を楽しみに来させていただきましたので、皆さんどうぞ、活発にご意見いただけたらありがたいと思います。どうぞスムーズな議事進行にご協力お願いいたします。

事 務 局　ありがとうございました。この会議は公開で開催させていただいております。本日傍聴者につきましては申し込みがありませんでしたので、0ということになっております。またこの会議は、会議録を作成するために録音させていただいておりますので、ご発言の際はマイクを使って発言いただきますようお願いいたします。後日、会議録を確認いただき、署名をいただく委員さんとしまして、谷口委員さんにお世話になりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。続きまして資料の確認をさせていただきたいと思います。

（資料の確認）

それではこの後、議事に入りたいと思います。本日の審議会の終了は 15 時を目途としておりますので、円滑な議事の運営にご協力をお願いしたいと思います。ここからは田中会長に議事の進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

田中会長　それでは議事に入らせていただきます。まず一番の文化芸術振興審議会について、事務局よりご説明をお願いいたします。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　ただいまの事務局からの説明について、ご質問ある方はお願いいたします。無いようでしたら、令和 6 年度事業評価及び令和 7 年度の方針説明について、事務局からお願いいたします。

事 務 局　（事務局より説明）

田中会長　ただいまの事務局からの説明についてご質問ある方はおられますか。皆さんのお手元には事前に、資料は郵送させていただいております。事前に目を通していただいて、事務局からの説明はピンポイントでここというところの説明でしたけれども、事前に見られてご質問を持っておられる方とかありましたら、お願いしたいです。基本方針と基本施策の方を分けて記載してあるので、同じ事業が評価の観点でページが分かれていますので、少しわかりにくいかとは思いますが。

委　　員　丹後能の開催ということで、私も行かせていただいたのですが、野村萬斎さんが丹後に来られるということは本当に貴重なことで、しかもお値段も抑えられていて、身近に感じられたし、「大般若」という演目も良かったので、もっとたくさんの人に観てほしかったなと思うんですけれども。でも、とても良かったです。野村萬斎さんの息子さんも来られて親子でやられて。こんな田舎の丹後で、東京でやっておられるようなことを鑑賞させていただける、こういう機会があったことは大変よかったなと思っています。

田中会長　演目で「大般若」という市制 20 周年にふさわしい演目をやっていただき、もう二度と見られないというような話も聞きましたので、見逃した方は残念かもしれない。なかなか皆さんお忙しくて、ここに挙がっているものをすべて観ている方はおられないと思いますけれども、いかがでしょうか。

松本副会長　ご意見がもう少し出しやすくなるかもしれませんので、私の方から少し、副会長という立場ですけどご容赦いただいて、質問します。アートフェスティバルいう、たくさん魅力的な事業に京丹後市の行政として取り組んでいるわけですけれども、この大変ユニークなプログラムといいますか、この折りたたみのものは、私もあちこち配ったりして大変好評で、これ面白いねという意見もありました。私は文化協会の会長をしているのですが、木津川市の文化協会の方々が京丹後市の視察に来られたときに、このプログラムをお見せしたところ、こんな面白いことやっているのかと驚かれました。このプログラムそのものがアートな感じで大変評価がよかったので、本当によかったと思います。大変ユニークなものを作っていただいて評価はいいですけれど、市民の方々の参加度合いが、実際に参加された方とか、足を運ばれた方がどうだったかというのは、どうでしょうか。今、評価いただきましたけれども、もう少し深掘りしたような現場からのご意見を伺いたいです。あ

と、もう１つ聞くと、例えば、この計画の中でこういう事業をやっていきましょうということでしたけれども、実際に担当する職員の立場から言うと、もう少し予算があれば、本当はこういうことがやりたかったけれども、そこは折衝の中でできませんでした。こういうことを今年度やりましたけれども、予算さえ許せば、実はこういう企画もやりたかったというものが、もしあれば、いかがでしょうか。

事 務 局　マップにつきましては昨年度もかなり印象的な作りでしたが、今年度はさらにバージョンアップした内容でした。2 年目ですけれども、市民の方や職員で「待ってました」という感じで受け取ってくださる方が多かったので、企画の内容として周知されてきているのかなという実感を持っております。昨年度はいろんな市内店舗の方がマップを置いてくださったというお話もさせていただきましたけれども、今年度はこちらが配ってない食堂とかお店の方でこれを掲示してくださったり、壁に貼ってくださっているところを、我々職員も目にしていて、皆さんがそれぞれにマップを活用したり楽しんでくださっているということが伝わってきたので、本当によかったというふうに思っております。先ほど副会長の方からご質問がありましたことについては、やはり予算の関係で、マップを広報物として作ることと、あとは少数のワークショップを続けるということに、どうしても予算がすべて使われてしまうという現状があります。可能であれば、アートフェスティバルというふうに謳っているので１つ目玉になるようなみる機会、市内の皆さんと連携して、みる機会を増やすことができればいいと思います。可視化するというところにすごく尽力しているので、先ほど丹後能というお話もありましたけれども、もう少しコンテンポラリーなもので、多くの人に見ていただけるような華になるような鑑賞の機会がつくれると「アートフェスティバルが始まったね」というふうに、皆さんに認知していただけるのではないかと思っています。やはり舞台や展覧会を作るということはすごく予算がかかりますので、今できる中でやれることが現状のプログラムの内容になります。

委　　員　はい。わかりました。

田中会長　どうぞ皆さん、時間的にあまりないので活発にご意見をお願いしたいです。私も「こまねこまつり」というのを、地域の歴史ということで、委員に入れていただきました。去年から教育委員会の後援をいただいて、それまでは京丹後市の後援だけだったのでまったく知らなかったんですけれども、教育委員会の後援をいただくといろんな所にチラシを配っていただけるということを去年知りました。その中で、一緒に御旅市場のアートフェスティバルの方も同日にさせていただきましたので見せていただきました。とてもいい取組で、街角ピアノだったり踊りだったり、皆がすごく大勢で行ったわけではないですけれども、ああいう場面があるということは「動いているな」と感じました。うれしかったです。会場には本も置いていただいていました。本屋さんがだんだん無くなっている現状もあるので、街中にそういう本や文化的なことに触れる場所がそこかしこにあるのはうれしいなと思います。みるところ・行くところがあるっていうので、すごくうれしく感じて。まだまだこれが日常にたくさんあればなと思っています。事務局さんは大変だったと思いますけれども、私はいろんな取組が動き出したというのはすごく感じさせていただきました。

委　　員　特にこの中の話ではないかもしれませんが、「こまねこまつり」の話が出ましたので。私

たち婦人会は、今年全国大会を京都市内で、私が会長ですので主催側で行かしてもらいました。その時に小山先生がこの「こまねこまつり」の話を基調講演でしてくださって、昔から伝わる祭りだとか神社やお寺とかを、コミュニティで守り抜いていけるかどうかというような話の中で京丹後の話をしていただいて、全国の方から、素晴らしい取組をしておられるということで賛同をいただきました。なので、この場で言っておかなければと思って。教育委員会で講演してくださる方が多くて、そのあとのシンポジウムには、田村太郎さんやそれから小原さんや、それからもちろん小山先生も出てくださって。渋谷先生とでそのお話を深掘りしていただいて、すごく素晴らしいものが、京丹後から発信できました。ちょっとお伝えだけ。

田中会長　ありがとうございました。微力ですけれども、ちょっとずつ、ちょっとずつやっております。一生懸命、歴史と文化と観光を含めて、私も頑張っているんですけれども。

委　　員　今、改めてマップを見させていただいて、全戸配布で家でも受け取ったなと思って、これが今回本当に印象に残るので、いろんな所で見たなという気がしています。それで今、お話がありましたけども、いろんな所でいろんなイベントをしているんですけれど、3 か月間の間で、これが始まって何か「わくわく」というのがあったのかどうかが、私には分からない。「9 月 21 日からまたアートフェスティバルが始まったんだな」みたいなものがあると、もっと認知されていくのかなと思います。全戸配布で知っている人も興味を持ってくださっているのかなあという疑問はあります。友達の間でもあまり話が出ないので、その辺はちょっと寂しいです。いろんな方を絡めたこと、丹後としてやっていけるようなことを考えていきたいなという気持ちはあります。

田中会長　その他にどうでしょう。

委　　員　これを初めて見た時にウキウキしました。ところが、ほとんど私は行くことができなくて。去年もそうだったけれど今年も残念ながら。でも「継続は力なり」と言いますので、必ずどこかで私も協力したいと思っている次第です。ですから、これを継続する中で、またひとつ加われることがあればという期待をしております。

田中会長　近藤さんは眼鏡にしてＳＮＳで発信しておられましたけど。

委　　員　重複することもありますけども、このリーフレット自体はすごく目を引いていいですけども、やっぱこう見ていると文字量がすごく多くて、中身が分かりづらいというのはあるのかなと思います。会期もすごく長いですけれども、お祭り・フェスティバルというぐらいなので、お子さんから若者世代、ファミリー世代、また全世代・男女問わず楽しめるような「本当に丹後でアートの祭りをしているんだな」というのを市民が感じるような企画をもっと充実させて、アートの拠点ができるといいと思います。分散して「先週どこで何かやっていたんだ」みたいな、後から知るようなことがないように、いつ行っても楽しめるようなアートに触れられる所ができたらいいのかなと思います。

田中会長　広報の部分でも、随分ご尽力いただいていると思いますけれども、ありがとうございます。

委　　員　私もパンフレットについてユニークでとてもいいなと思います。広げて見ると一覧で 6 町の催しが見られるということで、同じ日にイベントが重なっているので、あっちも行きた

い、こっちも行きたいと言いながら１つしか行けないという、もどかしい思いをしておりました。例えば 11 月 3 日は丹後で、それから弥栄でもあります、峰山でもあります。時間が大体同じですよね。それが、すべて周れるような感じになったらいいのにと友達と話していました。私は 3 日の日に文化祭があったので、お茶を楽しみたいと思っても同じ時間帯にあったので行けませんでした。若い時ははしごができましたけど、それがなかなかできなくなりまして。お客として楽しむという部分では、はしごができたらいいなと思います。それからパンフレットが楽しくて、いま文字数が多いとおっしゃいましたけど、読み込んでみると、ここではこういう催しがあるんだな、こっちもあるなというような盛りだくさんで。期間が 3 か月くらいですので、慣れてきたらもう少し同じ日にならないようにすればいいんじゃないかなと思う。それは贅沢な悩みですけど。

委　　員　皆さんのご意見とほとんど一緒になるかもしれませんけど、今実際、結果報告やいろんな説明もしていただいて、先ほどこのパンフレットの件もいろいろ話があり、本当に良いものをたくさんされていると思います。僕たちもいろんなイベントをさせてもらって、ポスターを作ったりいろんなＳＮＳで広報をするんですけれど、結局文字だけ見ても、やっぱり丹後の人って足が一歩出ない。でも行ってみたら、すごく良さを分かっていただけるということがほとんどだと思います。僕もいろんな企画をするときに、多分人間は目でみる情報が多いと思うので、それと耳で聞く情報を何とか組み合わせられないかといつも考えています。広報に関して言わせてもらうと、例えばバス停でもいいのでケーブルテレビさんに映像、こんな人が来ますよというようなＹｏｕＴｕｂｅ動画を発信してもらうとかいいと思います。目で見て、音で聞けるっていうのはケーブルテレビさんであろうと思っているので、各バス停とかにＬＥＤの少し大きなビジョンを広告用に置いてもえたらいいと思います。待合室でコーヒー飲みながら、ケーブルテレビがＣＭっぽく「こんなイベントをいつしますよ」「こんな人が出ますよ」とか、ＹｏｕＴｕｂｅの動画があがってくるとか、こんな音楽を聞いていただきたいだとか、こういう催しもやっていますというような広告動画とのイメージです。一種のＣＭになると思うんですけど、都会にはそういうのが結構あると思うんです。例えばどこかの会館の入口が必ずインフォメーション動画で、誰が出演しているというのがあるので、立ちどまって見てもらえるようなものをいろんなところに置くと、もう少し、足が出てもらえるんではないかと思っています。先ほどおっしゃったように、イベントの日にちが重なるというのは、僕は逆にすごくいいことだと思っています。いろんな所にいろんな方が、あちこち行かれるのはすごく僕はいいなと思っているので、逆にイベントをどんどん増やして欲しいぐらいです。とりあえずもう家にいるのではなくて、いろんな芸術に触れるようなことをいっぱいされているので、やっぱり足を踏み出していただけるようなことを先に考える方がいいと思いました。

田中会長　ありがとうございます。

委　　員　丹後の人は「あぁいいな」と感じるのが遅いと思う。それから今言われた、足が一歩前へ出るのも遅い。携わっている人は引っ張るんですけど、なかなか。押したり引っ張ったりしてもなかなか。アートフェスティバルを続けるということは、継続は力なりという話が出ましたけど、続けていくことで、足の重たい人も「じゃあちょっと行ってみようか」と

言ってもらえるようにしていただきたい。それから今言われた広報とかね。そういう手を使って、何とか続ける方向でいけば来場者はもう少し増えるのではないかと思います。

田中会長　広報の勉強会も推進会議で受けられたということで、事務局から説明よろしいですか。

事 務 局　推進会議の方で今年度広報の勉強会をさせていただいて、先日３回目の会議のときに、来年度どういった情報発信の改善提案をするのかということで、委員に企画を出していただきました。２つ意見が出ておりまして、１つが文化芸術に特化した情報配架のラックを各図書館に設置ができないかというものです。図書館というのは、まだ決まってはいないですけれども、6 町に文化芸術だけの情報が集まったものを同じように設置するという提案が１つ出ています。もう１つは広報の専門的なスタッフを置きたいという提案が出ました。こちらは雇用の面や予算的な部分で実現が難しいので、いま考えていることとしては、それぞれ専門的なジャンルから来ていただいている推進会議の委員の皆さんに不定期で相談員になっていただき、この日ここに来ると文化芸術に関わる方に相談できるという窓口を設置させていただくというものです。例えば、情報発信でＳＮＳが使いたいけれども、その使い方がわからない。誰に聞いたらいいかわからないというようなものを、その相談員が相談に乗ってあげるとか。チラシをこういうふうに作りたいけれども誰にお願いしたらいいかわからない、このチラシが本当にいいのか相談できる相手がいないというときに、例えば相談員でデザイナーの方もいるので、そういった方に相談窓口になっていただくとか。市民の皆さんが自分たちのスキルアップをしたいとか、相談したいけど誰に相談すればいいのかわからないような内容を、その相談員に相談できる機会を、まず情報発信に関して、そういった窓口を設置できないかというふうに考えています。この２つの企画について来年度実施ができたらいいかなというふうに思っています。

田中会長　ありがとうございます。チラシが置いてある所はあるんですけれど、我が社でもそうですが、誰かが見ていないと終わったイベントのものが置いてあったりします。市役所とか行くとチラシはたくさん置いてあるんですけど、もっとみんなが普通に行くところ、大勢集まるところに置けばいいのにと思います。東京方面に行ったとき、商店街の坂道のところ、みんなが絶対通るところの塀にザーッと貼ってあったんですよ。そういうのを見るとやはりＳＮＳで音が入るのを見るのもいいですけど、ポスターはポスターでいるのかなと思ったりしました。図書館に置くのもいいですけど、図書館はなかなか行かない人も多いので、どこに置くのかというのは、正直気になります。

松本副会長　私の方からは、ハード面・予算面のことで質問させていただきたいと思います。ここには記載がないですけれども、質の高い文化芸術の鑑賞ということでいうと、丹後文化事業団のことは切り離せないと思います。文化事業団の運営につきましては、京都府の建物ではありますけど、実際の運営については京丹後市の補助金がほとんど占めているという実態の中で、そこについての分析といいますか。特に私も事業団の理事をしているということもありますので、抱えている課題もずっと長年のものであって、建物が古いだとか補助金が少ないということですけど、そのあたりの分析・評価について、もし、しておられるのであれば伺いたいと思います。もう１つは予算面で、施設の雨漏りについて記載があったかと思うのですが、私は文化協会の役員をしておりますので、作品展などで公共施設をお

借りするときに、雨漏りだとか、使い勝手が悪いとか、施設が古いとかいろんな課題があると感じています。マスターズビレッジの項目で雨漏り修繕の予算要求を行っているという記載があるのですが、伺いたいのは、文化芸術振興計画を策定する前と振興計画を策定した後の予算総額に変化があったかどうか。計画はできたけれども予算は例年通り、財政との折衝で例年通り切られるということであれば、審議会の方でもっと声を出していいのではないかと思うのですが、計画策定の前後で予算推移はどうでしょうか。

事 務 局　まず１点目ですけれども、文化事業団さんへの補助金ということで、毎年度市の方から支出をさせていただいております。その補助金の中で文化事業団の職員さんの人件費ですとか、それ以外にも文化会館の建物の修繕費なんかも支出されているというふうに認識をしております。もともとは京都府の建物ですけれども、今現在としましては京都府の普通財産という位置付けになっております。京都府の施設であるけれども京都府の方で、なかなか改修していただけない状況にあるので、そこを文化施設として維持していくためには、市の補助金から支出するというような状況とお聞きしております。そういう状況でして、いろんな物価高騰ですとかが近年続いているというようなこともありますし、今現在の補助金額では必ずしも十分ではないというような側面もあると思います。来年度以降の予算については今現在予算編成の作業中ですので、そういったところも勘案しながら、検討している最中です。あと公共施設の関係で、いろんな体育施設とかが雨漏りしているということで、文化協会さんはそういった所を活用して、展示会とかされているというような状況ですけれども、先日も佐野小学校の体育館が雨漏りしまして急遽、市の職員で対応したというような経過もあります。普通財産を修繕する予算がなかなか確保しづらいというような状況がありますので、優先順位を検討して対応させていただければなと考えております。文化芸術振興計画策定の前後で予算の推移がどうだったかという分析については、今手元に情報が無いので、確認をさせていただいて、改めて回答させていただければと思います。申し訳ありません。

委　　員　私もマスターズビレッジの大研修室をギターサークルで使わせてもらったんですけど、エアコンが壊れていました。とてつもなく今年は暑かったので、各自、扇風機を持ち寄ったり、それとマスターズビレッジにある大型扇風機をまわしてもらって、それで暑さをしのいで何とか乗り越えたんですけれど、あそこは本当に大変活用させていただいています。雨漏り用のバケツも置いてありましたけど。本当に企画もいいんですけれど、そういう設備が、例えば文化会館のトイレだけでも何とかならないかなと思います。トイレの洋式の数が少なくて、特に年配の方は並んででも洋式の方に行きたいというので、すごい行列になることがあります。ですから、優先順位でトイレの件とか、エアコンの件とかが、できるだけ早く修繕できればなというふうに願っております。

田中会長　ありがとうございます。たしかに予算のことが私も気になりながら、なかなか厳しいというようなことを聞いております。ただ、振興計画の策定に至っているので、是非しっかりと予算をいただくような方向にお願いしていただきたいと思います。そうしましたら、今の時点で皆さんに１人ずつお聞きしたので、アドバイザーの先生方からコメントをいただきたいと思います。藤野先生よろしくお願いします。

藤野アドバイザー　最初のご説明とこのマップ、本当にインパクトがあって、私も素晴らしいなと思っていました。それから皆さんのご意見も、もっともだと思って聞いておりました。いくつかポイントがあると思いますけれど、このチラシの内容を見ると、本当に寺島さん中心に、生涯学習課で力を込めて、とても素晴らしい内容になっていると思います。やり方としては豊岡のアートシーズンっていうのがありましたよね。あれは夏と冬と2回冊子形式で出しています。全部自前でやっているわけではなくて、従来やってきたものに手持ちのものをプラスして冊子にして見える化する。全体を見える化するということはもう10年ぐらいやってきて、それを作っているのは現在で言うと文化・スポーツ振興課にあたります。だからそれと似たような形なのかなと思いました。ただ、このマップだけ見ると、どれが実際に自前の事業でどれが連携型なのか、少し見えにくいなと思います。外から来た人間は、やはりそういうふうに思ってしまいます。特に自前で、生涯学習課の250万円ほどの予算で行っている事業については、やはり一番メインで力が入っていると思うので、もう少し解説をつけて厚めにした方がいいと思いました。また、全戸配布ということなので、広報のターゲットゾーンやターゲットグループはどこなのかなと感じました。文化観光的なものも狙っているのかなと思ったんですけども、例えば豊岡にいると、京丹後アートフェスティバルの情報がほとんど入ってこないです。なので、おそらく市内の、市民のためのアートフェスティバルなのかなと思うんですけども、外から来てもらう人にとっても魅力的な企画が幾つかあるので、そこにいかにして発信していくのかということが1つポイントになるかと思います。それから今年2年目ということで、おそらく3年続けると実績ができて、外部資金、大きなものだと文化庁、その次は芸文振、或いは民間の財団のものが比較的取りやすくなると思います。マッチングブランド的なものだと、もしかしたら300万円ぐらいの外部資金が取れて、倍ぐらいの規模になるかもしれないなというふうには思います。ただそれも怖いところがあって、ちょっと後でこのチラシの話をしますけども、豊岡演劇祭は今年で5年目になりました。総額で1億2000万ぐらい使っているんですけど、市民税は50万ぐらいしか使っていない。あとは外部資金です。なかなかそこは市民に理解されないので、苦しいところですけれども。でもそれは、国とか文化庁とかに申請をして補助金をいただいているので、3年とか5年とかという時期が区切られています。その時期が節目になってしまうという怖さがあります。今年までは良かったけれども、来年以降どうしようかということがありえます。地方創生交付金とか、文化観光の助成金とかを使っているのですが、そういったものが来年以降取れなくなると急にしぼんでしまうという怖さがあります。なので、本当は3分の1原則で、3分の1は自治体から支出して、3分の1は外部資金、3分の1はできれば市民の寄付というような支え方が一番いいのかなと思います。市民の支え方という話なんですけども、私が一番実は気になっているのは、この最初にご説明いただいた図ですね。私どもが参加している審議会でございます。これは計画の進行管理を、年2回くらいやるということになっています。もう1つ、京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議というのがあって、これは私のアイデアも少し入っていると思うんですけれども、八尾市で作った計画・条例から、審議会だけではなくて推進母体を必ず設置するんだということでやってきました。八尾市でそれが始まって今年3年目なのです

けれども、推進会議のメンバーが最初 20 人だったのが今 34 人になっています。推進会議の全体会は月に 1 回ぐらい集まっていますし、幹事会というのは年 4 回ほど集まっていて、全体の基本的な方向性を決めたりしています。その全体の中からリーダーが出てきて、例えば八尾市だと、町工場がすごく多いんです。最近、痛感しているんですけれど、町工場ってすごくクリエイティブなんです。経営でもそうだし、実際に技能を持っている方がたくさんいらっしゃるので、町工場とアートがかけ合わされると、ものすごく面白いことができます。私は実感として町工場は劇場だと感じているんですけど、これだけアートが産業、特にものづくりと繋がっている自治体は他に行ったことがなかったので、今本当に驚いています。この秋は 2 か月半の間に 10 の会場で、同時多発的にいろんなイベントをやっています。コラボ型もあるんですけど、かなり尖ったアーティストやダンスとか、音楽も町工場などを使ってやるんですけど、もれなくマルシェが付いてきます。そうすると敷居がすごく広がって、日常とアートが溶け込むにはいい感じになる。先端的なダンスや音楽に触れる文化資源としての町工場が開かれたものなので、文化的コモンズっていうのが、3 年かかっていますけれども、いい展開をしています。一番重要なのは、推進会議が実際の運営母体だということです。事務局は文化振興課なので、すごくその人たちも情熱を持って関わってくださっているんですけども、今申し上げたようなアーティストだけではなくて、町工場とか社会福祉団体とか、いろんな方々がその推進会議のメンバーになっています。「うちのこの場所使えるよ」とか「こういう技術を使ってみたら」ということがどんどん提案されて、それが結びついてすごく面白くなっています。そういう形での推進会議ですから、企画にしても、推進会議が主催者になるぐらいに成長していくのが望ましいです。つまり町中がフェスティバルを担っていると。そこに関わったり、名前が入ることが自分たちにとってシビックプライドになればいいと思います。少し長くなりましたけど、ざっくりした感想です。このチラシなんですけれども、先ほど申し上げたとおり豊岡演劇祭を 5 年間やってきましたので、実際に評価をしっかり出していくためのものです。経済効果はすぐに出せるんですけれども、そうではなくて、そこで暮らす住民市民の生活がどれだけ豊かになったか。つまり、ウェルビーイングに結びつくものになっているかどうかということが重要だと考えています。ただ単に経済効果だけではなくて、住民の生活や意識をどのように変えていったのかということを、1200 戸にアンケート調査を実施して、現在回収中です。2006 年に基本計画を作ったときにも 1200 戸の住民調査をやりました。それと質問項目を揃えていますが、その時はまだ豊岡演劇祭は計画されていなかったので、実際に演劇祭を行って 5 年経った後、住民の意識がどのように変わったのか、芸術文化に対する考え方・文化政策に対するやり方にどういう違いが出てきたのかということを分析していこうと思っています。それから一番難しいのは、芸術文化的な価値をどうやって計るのかというところです。わざわざ東京から、あるいは世界から見に来られるような演劇祭ということは、そこでしか上演されないものがないと来ないわけですので、広がりだけではなくて、クオリティの高さ、尖がり具合というものもとても重要です。芸術に対する評価は定量化ができないので、定性的な、つまり批評を中心に評価をやろうとしています。若手の批評家に実際に演劇を見てもらって、文章を書いてもらって、それを私

たちが分析するというような芸術文化的な評価を入れて、総合的な評価を今やりつつあります。24 日、今週の日曜日になりますけども、もし時間がありましたら覗いていただければと思います。

田中会長　ありがとうございます。そうしましたら、甲斐アドバイザーお願いいたします。

甲斐アドバイザー　皆さん言及されていますが、こちらのアートフェスティバルのマップについて、私もすごく、これはよかったなと思っています。良いところとして、地域の文化祭から、文化庁と一緒にされている「あしたの畑」さんであるとか、いろんなジャンルで構成されていると思います。全戸配布ということで、興味がある部分で皆さんに行っていただけるのではないかと見ていました。市広報と一緒に入っていたもので文化祭だけがカレンダーになっていたものもあったかなと思うのですけれども、そういった形でこれをマップとして、情報の見せ方をいろんなふうにされているということが、工夫されていると思います。情報発信について、外部から京丹後という遠いところまで講師を呼ばれたりとか、いろんな勉強会もされているようなのですが、まちづくり推進会議以外の一般の方でも興味のある方がいらっしゃるかもしれませんので、一般の方が参加できるような回とかがあってもいいかなと思いました。情報発信に関してはこのたび京都：Ｒｅ－Ｓｅａｒｃｈ実行委員会の連携イベントを京丹後市とさせていただくんですけども、インスタなどＳＮＳを使った情報連携の仕方を共有させていただいて、よりよい広報ができればと思っています。京都府のＫＹＯＴＯＨＯＯＰという情報発信Ｗｅｂサイトがあるんですけども、そちらの方は希望があれば、京都府の方で記事を編集して掲載するという仕組みになっています。京丹後市にも照会はさせていただいているのですが、その情報が担当の方まで届いていないように感じるので、情報提供の仕方を検討しなければいけないと感じているとことです。

田中会長　ありがとうございました。今の先生方のご意見をもとに、引き続き、文化芸術事業の推進をさせていただきたいと思います。その他で何かございましたらお願いします。

事 務 局　先ほど副会長さんの方から質問がありました、「文化芸術振興計画の策定前後で予算額はどう推移したか」というところですけれども、調べさせていただきました。文化芸術振興事業に限定して報告させていただきますと、令和 3 年度、令和 4 年度は 3500 万円の予算を確保しております。令和 4 年度の末、令和 5 年 3 月にこの文化芸術振興計画が策定されております。策定された後の令和 5 年度が 3700 万円。今年度、令和 6 年度が 3690 万円ということで、概ね 200 万円ぐらいの増額という状況です。

田中会長　その他ございませんか。本当に今後、京都府さんとそれから豊岡と連携をしていただいて、広く京丹後市だけでなく、広報をしていただいたら嬉しいです。

教 育 長　村田課長から「市民遺産」の話をお願いします。

村田課長　文化財保存活用課から参加させていただいております村田です。今教育長の方から話がありましたけれども、京丹後市の教育委員会では文化財保存活用計画というものを作っておりまして、そちらの方で基本的に我々仕事をさせていただいております。生涯学習と文化というのは大きくつながっておりまして、例えば 11 月末には甲斐さんにお世話になって、文化財活用課の職員と一緒にバスに乗って「動く美術館」をさせていただくということをやっております。今、言いかけていましたのは京丹後市の「市民遺産」という制度を、昨

年の 12 月に策定をしておりまして、この 7 月から受け付けを始めております。普通、文化財といいますと、基本的には行政側から、「こういったものは価値があるので大切にしましょう」ということで持ちかけて、指定文化財などになるというのが基本です。これを、市民の方から、「我々が今まで地域で取り組んでいることについて、非常に価値があると思うので、ぜひ市民遺産にして欲しい」という、いわば提案型の制度を始めております。つい先だってその第 1 号と 2 号の認定がありまして、久美浜一区の秋祭りが市民遺産第 1 号として認定されました。それからもう 1 つが吉沢区の中に、吉沢村の文書がありまして、それについて吉沢村の方々がまとめられた本があります。それについての市民遺産ということで吉沢の方から提案があって、無事 2 団体の認定ができたというところです。この制度については随時、受け付けをさせていただいております。事務局は文化財保存活用課の方が担っていまして、今後、市民遺産を増やしていきたいと思っております。皆様、もし対象がありましたら、気兼ねなく文化財保存活用課の方にお問い合わせなどいただけたらと思います。

教 育 長　古いものを残してくということでなくでも、いま行っていることがすごく価値があるということでもいいと思います。芸術文化とつながりが非常に強いと思いますので、お知り置きください。

田中会長　先ほど藤野先生が、八尾のものづくりの話をされていたんですけれども、実は今朝、ある客人を民谷螺鈿さんというところにお連れさせていただきました。ご存じの方もあると思いますけども、世界的なクリエイターとかデザイナーの方、ブランドとつながっているところです。打掛が展示してありますけど、それも美術館に展示するぐらい価値があるものです。ものづくりという部分で、糸編から始まって丹後の場合は本当にたくさんあります。今、欧米豪の方がＤＭＯのツアーで大勢来られるそうです。その方たちが 2 時間ぐらいおられて、10 人ぐらいで作業をしているということで、すごく驚かれるんです。それだけ価値の高いものがあって、物づくりはすごく大切だと思うんです。先ほどの八尾の話に繋がりますが、そこに地元の人が、気づいてない。先日は「あしたの畑」の最終日の前日に長男夫婦に連れられて行かせていただいたんですけど、そこもまた世界的なクリエイターの方の作品が展示してある。3 か所ご案内いただいたんですけれども、とんでもないものがある。私、女将さん会で直島に行って、丹後が直島になればいいなと思っています。それだけのものがいっぱいあると思います。その思いで動いているメンバーが何人かいるんです。みんなが理解、興味を持っておられる方ではないと思いますけれども、丹後はそういうものが、市長がよく言われている宝の山が、足元にあるところなのに十分活用できていないと思います。プロデュースできてないというか、それをどういうふう見せていくのかということについて、文化芸術の力っていうのは大いに活用できることがあると思います。それからもう 1 つだけ。この前、五島列島の上五島に行かせてもらいました。教会が上五島だけで 29 もあります。五島列島全体では 50 あって「祈りの島」ということになっていますけど、すごく田舎ですし遠いです。と思ったら、丹後半島は陸続きなんです。自然豊かな本当に居心地のいい「祈りの島」として有名で、今移住者が増えている。五島は半分以上が移住者と言われています。2 回そこに行きましたけれども、今時代が求めて

いるものは何かと考える機会となりました。丹後にはそれがあるんじゃないかと可能性を感じています。この機会ですので、意見として言わせていただきました。ということで、事務局の方にお返しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事 務 局　田中会長さんありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、松本副会長からご挨拶をお願いします。

松本副会長　審議会、ご苦労様でした。文化芸術振興審議会の役割について、今回事務局の方から説明いただいたんですけれども、審議員の皆様は、地域の色々な文化芸術やアート活動を引っ張っておられる、現場のリーダーの皆様が集まってくださっていると思っております。先ほど藤野先生から、市民に力がついていくことで、まちもいろんなものが回っていくという話がありました。審議会の皆様のご提言とか、大所高所からのご意見が、必ず活かされる仕組みができると私も思っております。これからも文化芸術のいろいろな事業をみていただき、「こういうかたちの方がいい」と思うものがあれば、普段から引き出しの中にそれを貯めていただいて、次の審議会で、「これはどうなんだ」とか「あのまちでこんなものを見て感動した」とかそういったものをぜひ披露していただきたい。この審議会ができて、京丹後市の文化芸術は大分変わってきたというような、そういう場になるように、活発なご意見を賜りたいと思っております。本日はいろいろご意見賜りましてありがとうございました。お世話なりました。

松本課長　ありがとうございました。以上をもちまして、第 2 回の文化芸術振興審議会を閉会とさせていただきます。本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。